



背景

- ・ 3歳未満児の約6～7割は家庭で子育て
- ・ 核家族化、地域の繋がり希薄化
- ・ 自分の生まれ育った地域以外での子育ての増加
- ・ 児童数の減少

課題

- ・ 子育てが孤立化し、子育ての不安感、負担感がある
- ・ 子どもの多様な大人、子どもとの関わりが減った
- ・ 地域や必要な支援とつながらない

解決策

多くの子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安を共有する場や、専門の支援員に子育ての悩みを相談できる場を提供する必要がある

※厚生労働省ホームページより引用、一部加筆

本市の施策

地域子育て支援拠点事業

■おやこDE広場・子育て支援センター

子どもにとって楽しく過ごせる場所であり、保護者にとっても子育ての仲間づくりや相談ができる場所として多くの方に利用いただいています。また、「赤ちゃん教室」の開催場所の提供を行うなど、関係課と協力した取組も行ってあります。

■設置状況

市内27ヶ所

■対象者

- おやこDE広場・・・0歳から3歳児とその保護者が対象
- 子育て支援センター・・・未就学児とその保護者が対象

■利用者数

延べ76,935人（令和2年度実績）

■スタッフ

教員免許や幼稚園、保育士などの資格を持つ者や、国のシラバスに沿った研修を受講した子育て支援員がスタッフとして支援します。また、これから子育て支援事業に携わりたいという方が必要な知識と技術を習得できるように子育て支援員研修を実施しています。

子育て支援員研修修了者を「松戸市人材バンク名簿」に登録し、必要に応じて子育て支援事業運営事業者に提供しています。

■イベント等の実施

- ふれあい体験・・・中高生が乳幼児とふれあいながら、子育て中の保護者から妊娠中の様子や子育ての楽しさや大変さを聞くことで、家族を持つことのすばらしさ、命の大切さを感じてもらうとともに、将来の児童虐待の防止にもつながる体験を実施。
- 医療的ケア児家庭への支援・・・医療的ケア児、きょうだい児、家族がゆっくり過ごすことができる場所を提供。
- 多胎児家庭への支援・・・多胎児世帯が抱える育児の不安感の解消を目的に多胎児家庭を対象としたイベントを実施。

中高生のふれあい体験



医療的ケア児支援



多胎児支援



利用者支援事業

■子育てコーディネーター

子ども及びその保護者並びに妊婦が子育て支援を円滑に利用できるよう、おやこDE広場や子育て支援センターで子育ての悩みや相談を受け、地域の子育て支援施設や専門機関につなぐ支援を行います。

■配置人数

76名（令和3年12月1日時点）

■相談件数

延べ5,657件（令和2年度実績）

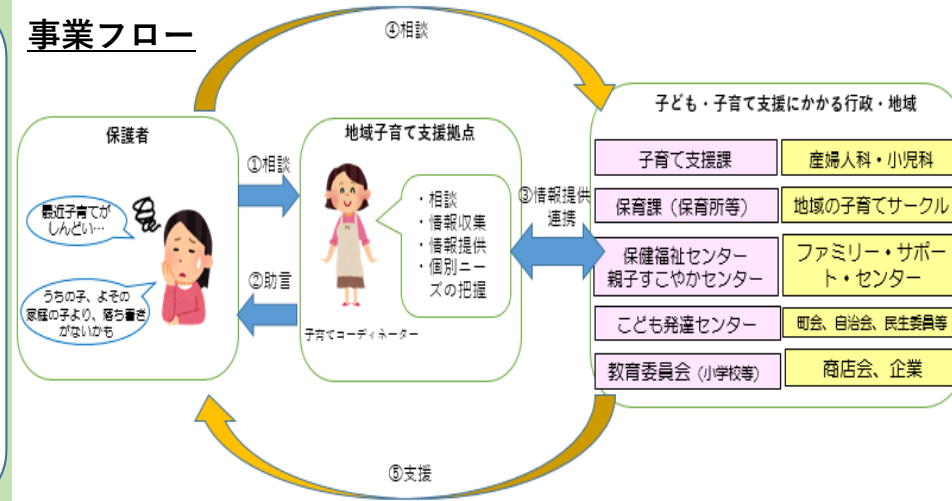
■スタッフ

地域子育て支援拠点や保育所等での実務経験を1年以上有し、指定する講座を受講した子育てに関する専門的知識を持ったスタッフを子育てコーディネーターと認定し利用者を支援します。子育てコーディネーターを対象に、スキルアップのためのフォローアップ研修等を実施しています。

■子育てオンライン相談

ZOOM等のビデオ通話機能を利用したオンライン相談を実施し、相談者が自宅等にしながら子育てコーディネーターと顔を合わせ子育て相談が行える窓口を開設しています。

事業フロー



一体的な運用で子育て支援機能を強化

日頃から、親子と関わるスタッフが関係性を構築し、悩み等をキャッチ。キャッチした悩みはコーディネーターと共有し、必要な支援へとつなげている。

(参考資料) 近隣市の地域子育て支援拠点事業等の状況



	名称	施設数	備考	利用者支援 (名称)
松戸市	おやこDE広場 (ほっとるーむ含む)	19	27 保育園に併設	基本型：27カ所 (子育てコーディネーター) 特定型：1カ所 (利用支援コンシェルジュ) ※本市は全ての地域子育て支援拠点27カ所で利用者支援事業を実施
	子育て支援センター	8		
千葉市	子育て支援館	1	20 保育園に併設	特定型：6カ所 (利用支援コンシェルジュ)
	地域子育て支援センター	7		
	子育てリラックス館	12		
船橋市	子育て支援センター	2	23 児童館	特定型：3カ所 (子育て支援コーディネーター)
	児童ホーム	21		
市川市	親子つどいの広場	3	27 保育園・大学等に併設	特定型：1カ所 (子育てナビ)
	地域子育て支援センター	10		
	こども館	14		
柏市	地域子育て支援センター	16	22 保育園に併設	基本型：2カ所 特定型：1カ所 (アシストデスク)
	はぐはぐひろば	2		
	児童ホーム	4		
流山市	地域子育て支援センター	11	11 保育園に併設	基本型：11カ所 特定型：1カ所 (コーディネーター)

共働き子育てしやすい街ランキング2021 総合編1位



日本経済新聞社と日経xwoman (クロスウーマン) が昨年12月に発表した、「共働き子育てしやすい街ランキング2021」の東京を含む総合編で本市が1位となり、2年連続受賞した。今回の調査では、保育所等の施設面の観点からの評価に加え、コロナ下でのオンライン育児相談など、親子の孤立防止対策等が高評価を受けた。

※日本経済新聞 土曜版 令和3年12月18日付 より引用

「松戸市は妊産婦支援や保育環境の充実など、質向上への取り組みに力を注ぎ、幅広い分野で高得点を得た。孤立しがちな乳幼児家庭と接点を持つと駅ビルなど27カ所に親子が集まれる広場を開設。感染対策をしながら「子育てコーディネーター」が親の悩み相談に応じている。

上位自治体の子育て支援の例

千葉県松戸市 「市内27カ所に乳幼児とその親が集まれる広場を開設し、専門家が育児相談にのる」